

Wilmina AI Data Science Literacy Program  
自己点検・評価報告書

2024年3月  
大阪女学院大学・短期大学

2022(令和4)年度より取り組みを始め、2023年8月に文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」として認定されたWilmina AI Data Science Literacy Programを構成する唯一の科目として開講した「AI・データサイエンス基礎(以下、本科目という。)」について、2023年度の自己点検・評価を実施した。評価項目は文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)実施要綱細目」3の(2)及び(6)の内容に準じた。

## I. 評価体制について

大阪女学院大学・短期大学カリキュラムセンターは、教育課程における内部質保証の責任担当組織であり、情報教育展開部はカリキュラムセンターの協力支援組織である。

情報教育展開部は、本学の共通教育科目群(研究・調査の方法及びコアエリア情報)に関する施策の企画・立案・運営・点検・改善を目的とし、活動している。

## II. 学内からの視点

### 1. プログラムの履修・修得状況、学修成果に関する事項

- ・大阪女学院大学、大阪女学院短期大学(以下、本学という)では、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の目的を踏まえ、AI・データサイエンス教育は次世代を担う学生にとって不可欠であると考え、2022年度入学生より、大学(国際・英語学部)及び短期大学(英語科)の1年次全学生必修科目として本科目を開講した。
- ・開講にあたっては、学習効果を向上させるとともに、他科目の課題等による負荷の影響を考慮し、学期末の課題提出や定期試験受験が集中する時期を避け、秋学期開講として9月末から12月末にかけて学習スケジュール\*1を設定した。学生に対しては、昨年度までのe-learningサイト上のみでの学習ではなく、対面授業とe-learningサイト上において学習に取り組むことを説明した。\*2
- ・学修成果を高める取り組みとして、学生に全15回の授業の確認テストでの満点取得と、各回の授業内容から出題する3回のまとめテストの受験、第9~12回の授業ではエクセルを利用した「データを読む」「データを説明する」「データを扱う」の操作処理とその成果物の提出も求めた。\*3
- ・エクセルの操作処理に不安を感じる学生(40名程度)を対象として、第9~12回の授業時にはパソコン教室にて、スタッフによる操作説明・サポートも行った。
- ・担当教員によるメールでの質疑応答は随時実施された。
- ・教室での対面授業とe-learningサイトでの学習であったため、昨年度の課題であった学習状況の進捗の鈍さが大きく改善された。具体的には、12月末までに学習を修了した学生は103名のうち75名「修了率:72.8%」で、昨年度の同時期(125名のうち69名「修了率55.2%」)と比較し、修了率は20ポイント程度向上した。
- ・また、12月末までに学習を修了できていない学生を対象に学習期限の延長を行い最終期限の2月19日時点で学習が修了した学生は103名のうち91名「修了率:88.3%(昨年度修了率:82.4%)」となった。\*4

\*1

全15回授業内容	授業方法	対面授業実施日	まとめテスト出題範囲
第1回 データサイエンスとは	対面授業	9月29日	-
第2回 社会で起きている変化	e-learningサイト	-	-
第3回 社会で活用されているデータ	e-learningサイト	-	-
第4回 データ・AI利活用の活用領域	対面授業	10月13日	<b>○出題範囲:1-4回の授業内容</b>
第5回 データ・AI利活用のための技術	e-learningサイト	-	-
第6回 データ活用とは	e-learningサイト	-	-
第7回 データ・AIの利活用の現場	e-learningサイト	-	-
第8回 データ・AI利活用の最新動向	対面授業	10月27日	<b>○出題範囲:5-8回の授業内容</b>
第9回 データを読む(1)	対面授業	11月10日	-
第10回 データを読む(2)	対面授業	11月17日	-
第11回 データを説明する	対面授業	11月24日	-
第12回 データを扱う	対面授業	12月1日	-
第13回 データ・AIを扱う上での留意事項(1)	e-learningサイト	-	-
第14回 データ・AIを扱う上での留意事項(2)	e-learningサイト	-	-
第15回 データを守る上での留意事項	対面授業	12月15日	<b>○出題範囲:13-15回の授業内容</b>

\*2

**基本的な授業の受け方**

**1.動画を見る**  
各回に説明の動画がありますので、まずはそれを見て、勉強してください。

**2.確認テストを受ける**  
動画を見て、内容を十分理解できたら、確認テストを受けてください。  
この確認テストは、満点を取るまで繰り返し受けてください。

**3.これを15回繰り返す**  
15回の授業の分、動画と確認テストが用意されていますので、すべての動画を見て、確認テストを受けてください。

\*3

**成績評価方法・基準**

1.出席による評価資格の設定あり  
教室での授業8回のうち、**3分の1を超えて欠席した場合は、評価資格不十分となり単位を修得することができません。**

2.最終成績  
**100点満点=エクセル40点(10点×4回)+まとめテスト60点(20点×3回)**  
注意：**まとめテストは確認テストとは別です。**  
60点以上をPass、60点未満をFailとして評定する。

3.詳細  
エクセルは1回あたり全て処理して提出すれば10点で、欠席し教室外から提出したものも評価対象となります。  
まとめテストは1回あたり20点満点(10問×2点)で、**各1回しか受験できません。**  
まとめテストを欠席した場合の得点は0点となり、別途受験できる機会はありません。  
**まとめテストの設問は確認テストから選んで出題します。**  
各回の確認テストの点数は最終評価には反映しません。

\*4履修・修得状況

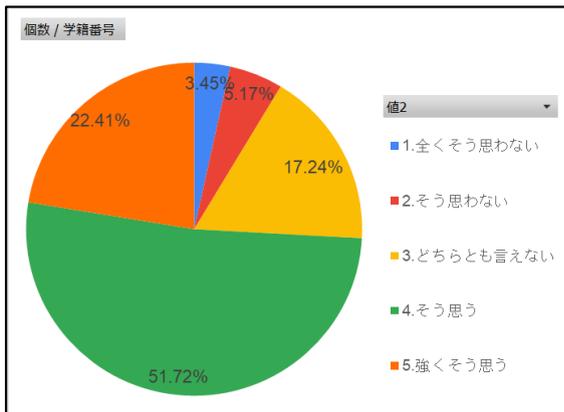
2023年度	大 学	短期大学	合 計
履修者	73名	30名	103名
修了者	63名	28名	91名
修了率	86.3%	93.3%	88.3%

2. 学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・後輩等他の学生への推奨度

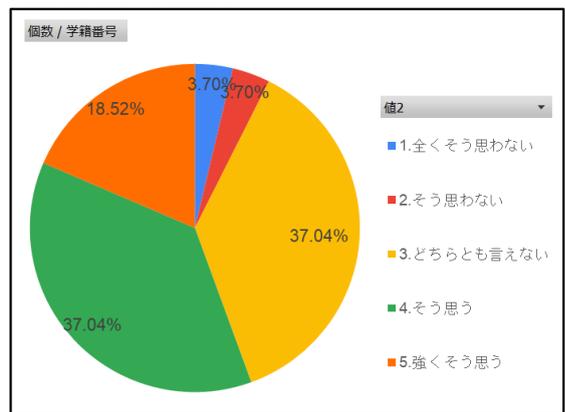
- ・本科目でも全学的に実施している授業アンケートを実施した。回答者数(大学:58名 短期大学:27名)
- ・Q9の結果\*6より、学生の「3.データの扱い方」の理解度は特に高いものとなった。その他「1.データサイエンスの概念の理解」「2.データサイエンスの事例の理解」「4.データ分析手法」「5.データ・AIを扱う上での留意事項の理解」は「3.データの扱い方」ほど高くはないが、Q8\*5の結果より身につけた知識を活かせると思えていることから一定の理解度はあると言える。
- ・本科目を学ぶ学生が動機をより一層明確にできるよう、アンケート「Q10この授業を受けて良かった点」の回答として多かった以下の内容を次年度履修者に案内する。
  - ・Excelの使い方や専門用語の解説が非常に役立ち、将来の仕事に活かせると感じた。
  - ・AIについて詳しく学べたことが良かった。
  - ・エクセルの実技演習があり、自分のペースで学べた点が良かった。
  - ・パソコンやエクセルの操作に自信が付き、情報の扱い方やデータのまとめ方を学ぶことができた。
  - ・データサイエンスや情報管理についての理解が深まった。
  - ・将来の就職に役立つスキルを身につけたと感じている。

Q3私はこの授業に意欲的に取り組んだ。

大学 国際・英語学部

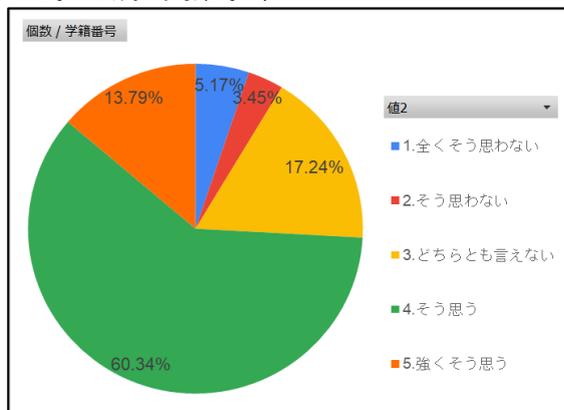


短期大学 英語科

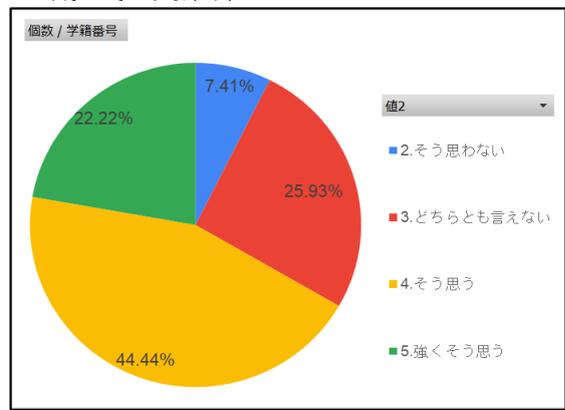


Q4この授業の内容や進度は、自分にとって適切であった。

大学 国際・英語学部

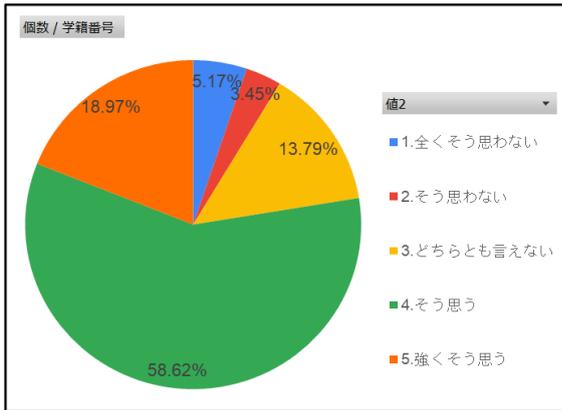


短期大学 英語科

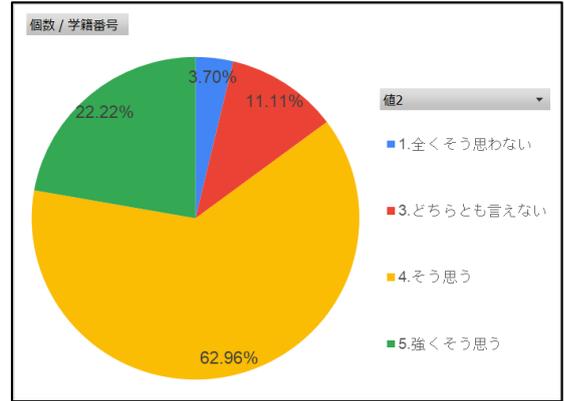


Q5この授業の教材または動画は適切であった。

大学 国際・英語学部

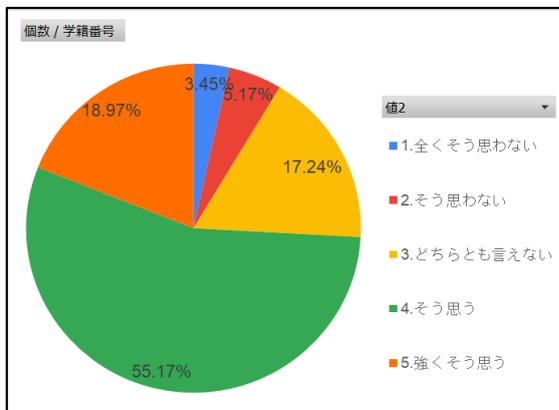


短期大学 英語科

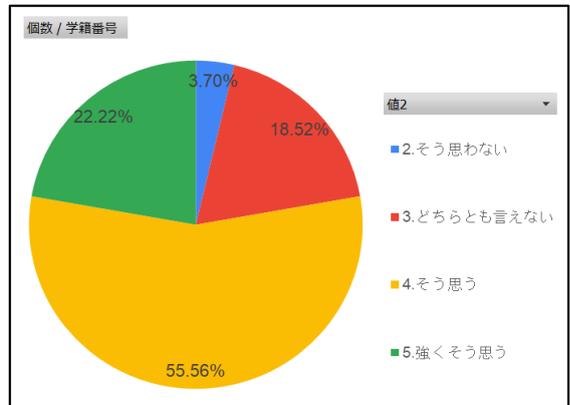


Q6私はこの授業を受講して総合的に満足した。

大学 国際・英語学部

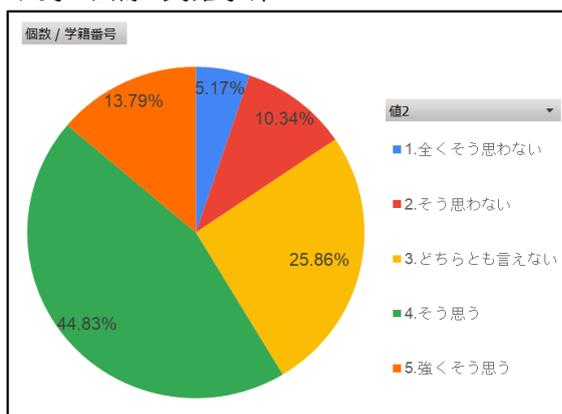


短期大学 英語科

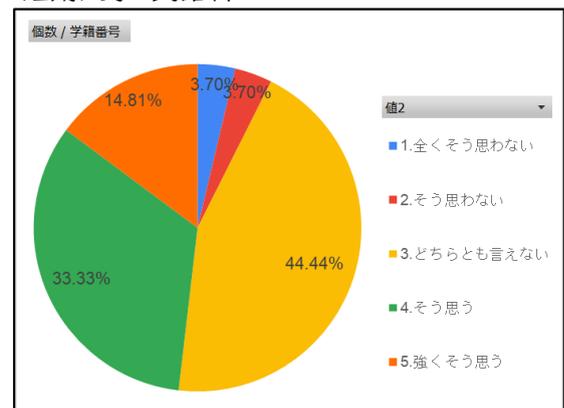


Q7私はこの授業を受講してデータサイエンスという学問領域に興味・関心を持った。

大学 国際・英語学部

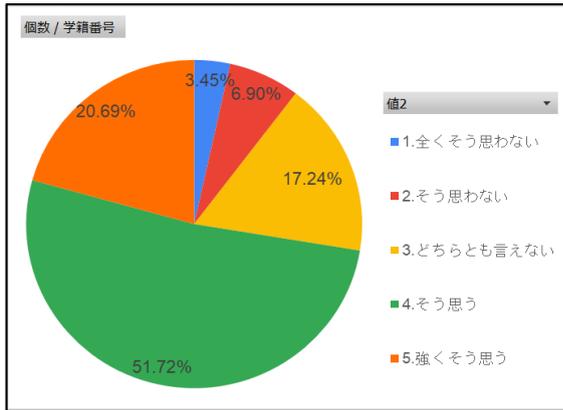


短期大学 英語科

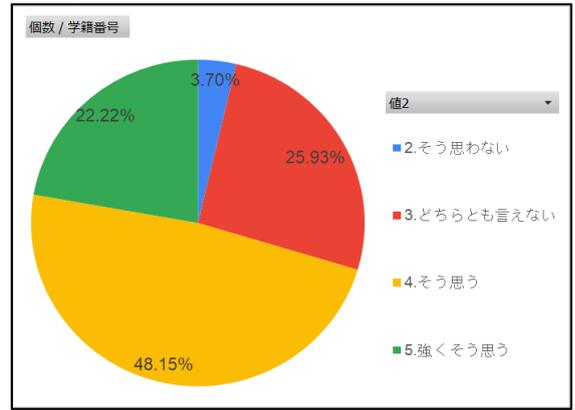


Q8私はこの授業で身につけたデータサイエンスの知識を自分の将来に活かせると思う。\*5

大学 国際・英語学部

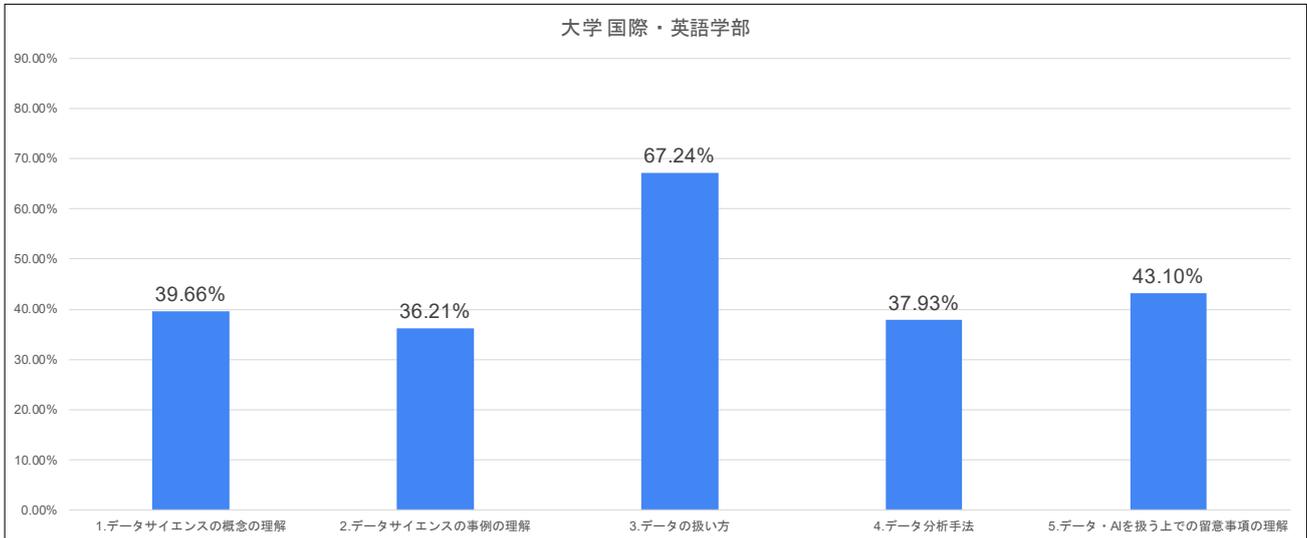


短期大学 英語科

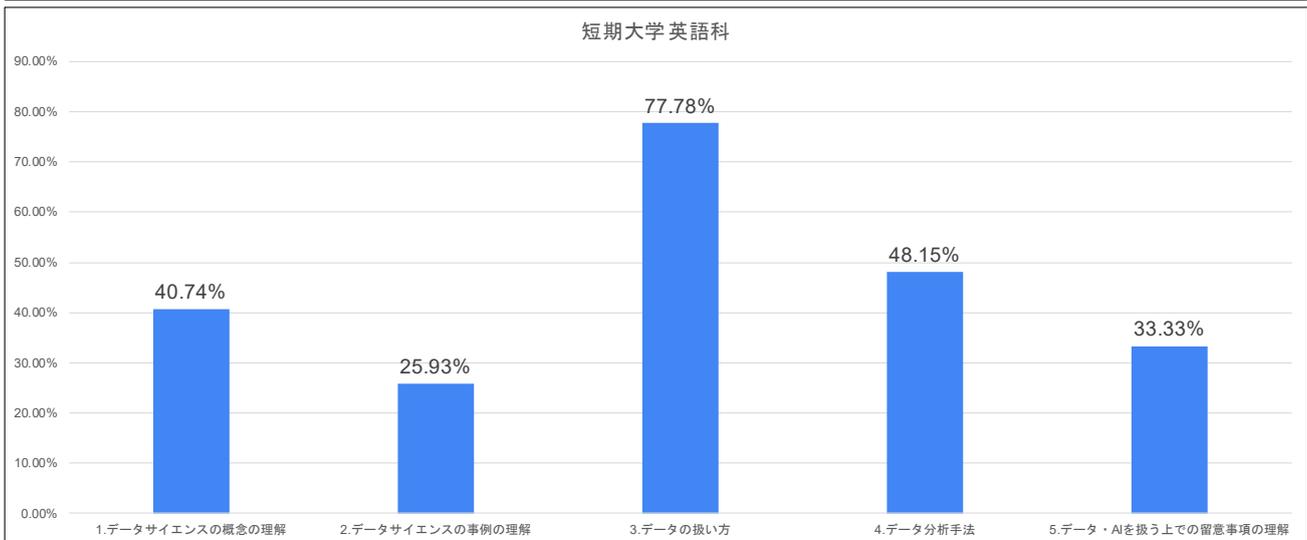


Q9この授業を受けて、身についたと思うことを教えてください(複数回答可)\*6

大学 国際・英語学部



短期大学 英語科



## 3.全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

- ・入学者数に対する本科目の履修率は1年次全学生必修科目であるため、短期大学においては2023年度に100%となり、大学においては2025年度に100%となる。\*7

## \*7履修率移行状況

年度	大学	短期大学
2022(R3)	34.4%	64.3%
2023(R5)	60.4%	100.0%
2024(R7)	88.1%	100.0%
2025(R8)	100.0%	100.0%

## Ⅲ.学外からの視点

## 1.教育プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価に関する事項

- ・2023年度末に、本科目を修得した短期大学の卒業生が初めて誕生する。短期大学においては2024年度以降、大学においては2027年度以降の卒業生調査において、本科目を修得した卒業生の進路先や活躍状況の把握が可能である。

## 2.産業界からの視点を含めた、教育プログラム内容・手法に関する事項

- ・本学の卒業生が就職した企業等を対象としてアンケート調査を実施している。このアンケートに設問を加える形で、本学卒業生に対する情報リテラシー及び数量的スキルの修得状況を調査し、本科目の改善に活用する。

## Ⅳ.改善・進化に向けた取組

## 1.数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

- ・本科目の学習開始時に、学生に身近なサービスや製品等の具体例を活用して説明した。また、第8回の授業では、授業担当者とは異なる本学教職員が、実社会の医療現場におけるAIの開発と活用事例である弘前大学医学部の取組「AIによる日本語の方言の標準語への翻訳」を紹介した。  
くわえて、1年次全学生必修科目「総合キャンパスプログラム演習」においてテクノロジーライターが「デジタル社会の問題を考える授業」を行うことにより、学生の数理・データサイエンス・AIを「学ぶことの意義（動機付け）」や「学ぶ楽しさ」の理解が深まるように努めている。

## 2.内容・水準を維持・向上しつつ、「分かりやすい」授業とすること

- ・授業評価アンケートQ9の2023年度\*6と2022年度\*8の結果を比較すると、2023年度は「1」～「5」において概ね身についたと回答した学生の割合が増加した。また、「3」が身についたと回答した学生の割合が最も高く同傾向であった。
- ・今後、「1・2・4・5」が身についたと回答する学生の割合を高める学生の「分かりやすさ」の視点から授業の内容と実施方法を継続的に改善することを検討する。

「1」:データサイエンスの概念の理解

「2」:データサイエンスの事例の理解

「3」:データの扱い方

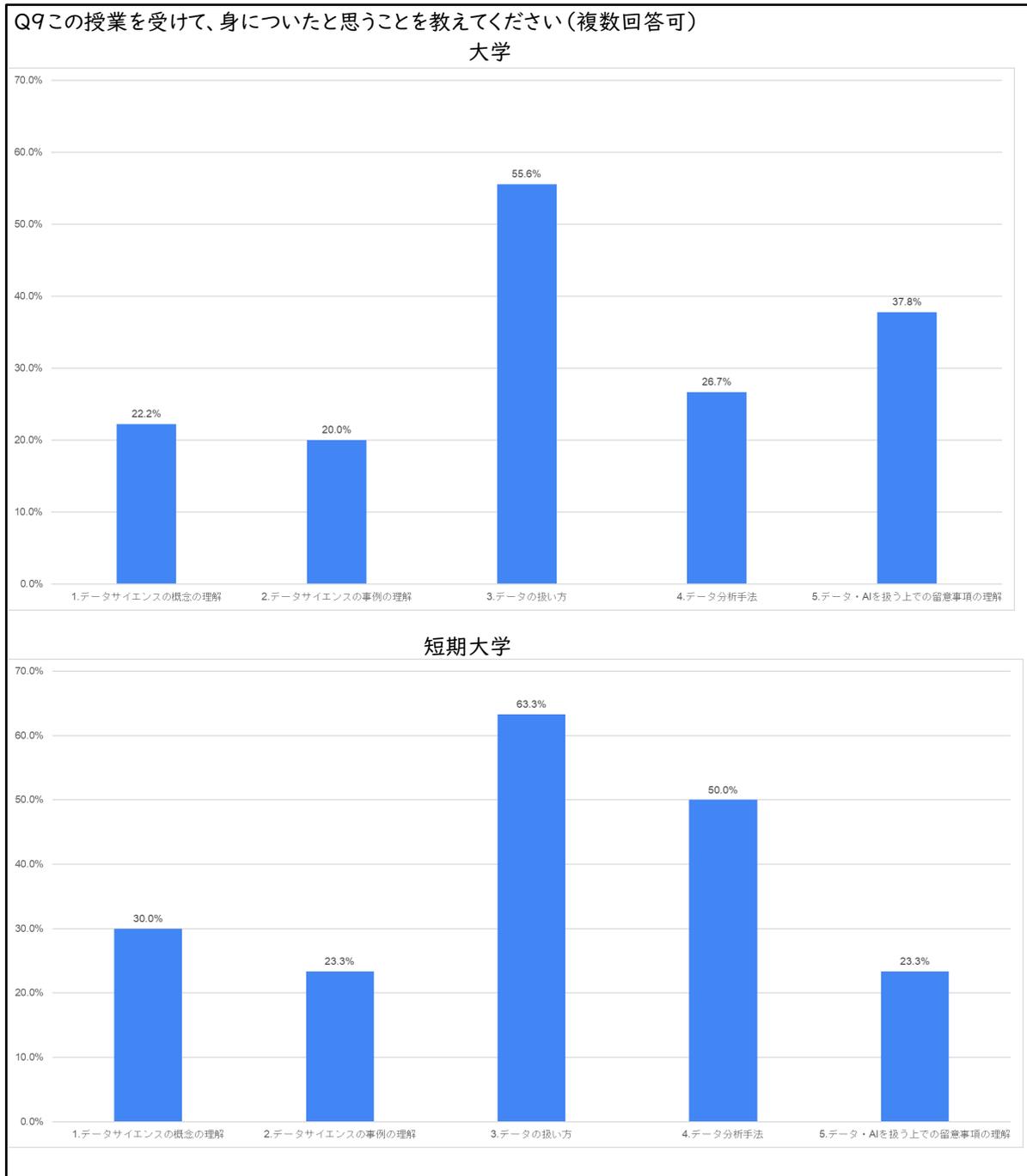
「4」:データ分析手法

「5」:データ・AIを扱う上での留意事項の理解

3.次年度における更なる学修成果向上にむけて

- ・2023年度において効果的であったExcelを用いた課題のサポートに加えて、TAの配置についても検討する。特に、日本語を母語としない学生に対して、同じ国の出身である先輩が学修をサポートできないか、体制を模索したい。

\*8 2022年度アンケート結果



V.参考リンク(文部科学省)

「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)実施要綱細目」

☒ [https://www.mext.go.jp/content/20210315-mxt\\_senmon01-000012801\\_4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210315-mxt_senmon01-000012801_4.pdf)